

I. はじめに

- (1) 述語と項の複合には外項が除外されるという普遍的な構造制約がある。
(cf. Lieber 1983, Mithun 1984, Baker 1988, 影山 1993)
- a. 親の子育て vs. *子の親育て
b. 女性の山登り vs. *富士山の女登り
c. *kid eating, *baby crawling, * (公園での) 子供遊び, *虫さし (cf. 虫さされ)
- (2) a. このホテルは安藤忠雄氏設計です / その立候補者は自民党公認です
b. 大統領主催のパーティ / プロカメラマン撮影の写真 (影山 2009:7)

「内項制約が、...特定の時間における出来事の発生を描く場合に適用するのに対して、(9) (=2) の例は出来事の発生そのものではなく、主題として取り立てられた名詞の属性・特性を描写している」 (ibid.)

- (3) a. *そのパーティは、今日、大統領主催です。
b. *そのときたまたま安藤忠雄氏設計の美術館
- (4) 事象叙述から属性叙述へのシフト $(Ev(x(y(z)))) \rightarrow (Ev^{\wedge}(x,y,z))$ (ibid.:30)
「事象項を抑制 (つまり不活性化) することによって特定の時空間に言及することができなくなり、その結果として、総称的(generic)な事態—すなわち、主語ないし主題となる名詞の属性を特徴づける文—になる。」 (ibid.:33)
- (5) a. このセーターは手編みです / 漆塗りの皿
b. 床が水浸しです / 袋入りのスナック菓子 / あの大工は大学出です
c. 健は金持ちだ / 花子は人たらしだ / 学校帰りの子供たち
- ◎ 複合名詞においても様々なタイプの属性描写が可能である。それぞれの解釈がどのような条件のもと、いかに導かれているのかを明らかにする。

II. 「X+動詞連用形」型述語名詞の形成についての先行研究

・上記(1)の制約がかかる動詞由来複合語は純粋な名詞であり、叙述機能をもち得るものの形成は異なるメカニズムによる。前者は項構造、後者は LCS における語形成で付加詞との複合である。

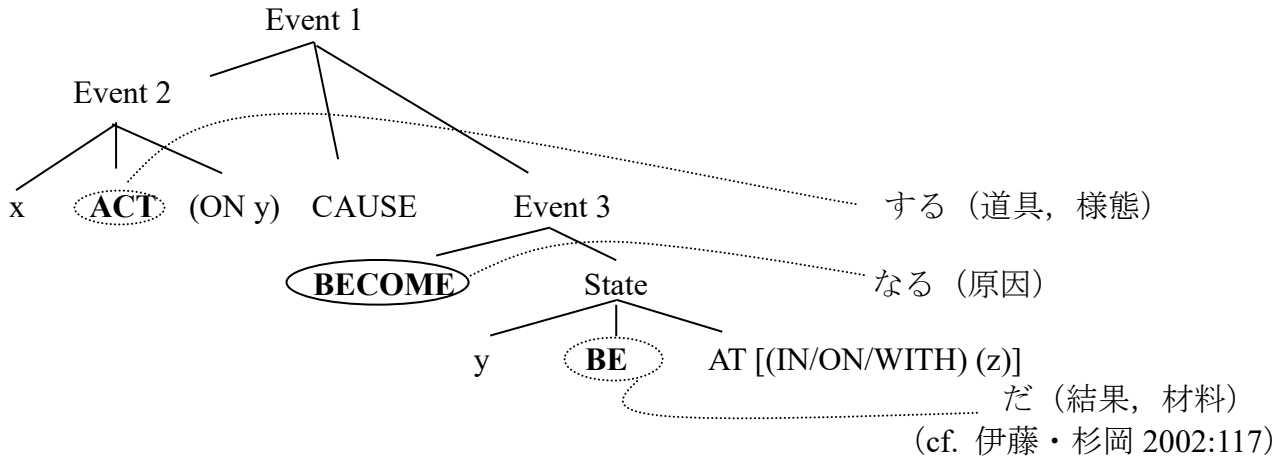
(Sugioka 2001, 伊藤・杉岡 2002)

- (6) a. 筆で宛名書きをする / *宛名は筆書きをした
b. 花子は浜で宝探しをした / *宝は浜探しをするに限る
- (7) a. 手紙をペン書きする, 車を水洗いする, 布団を天日干しする
b. *ペンで手紙書きする, *水で下着洗いする, *天日で布団干しする
- (8) a. ペン書きの手紙, 手作りのお菓子, 黒焦げの魚, レンガ造りの家
b. 花子の本は革張りだ, 花子のセーターは機械編みだ

・LCS を用いた意味記述

- (9) 「ペン書き(する)」: [[x ACT ON y (with pen)] CAUSE [BECOME [y BE AT [IN WORLD]]]]
(cf. 伊藤・杉岡 2002:124)

図 1



- (10) a. 四つ切りのリンゴ, 三つ折りの財布, この壁は黒塗りだ (結果述語 AT z)
 b. 石造りの家, モヘア編みのセーター, この寺の屋根は瓦葺きだ (材料 WITH z)
 c. 黒焦げの魚, 赤枯れの松, 健はびしょ濡れだ (結果述語 AT z)
 d. ペン書きの答案, この肉は炭火焼きだ (cf. *手洗いのセーター) (道具)
 e. *職人焼きのピザ, *母親作りのドレス (動作主)

「本来 Event2 に焦点がある作成・使役変化の LCS において、結果事象に焦点を移動させる操作が働いていて、そのために Event2 によって選択されている道具が、あたかも結果事象を修飾しているかのような解釈が可能になっている」 (ibid. 2002:121)

・問題となる例

- (11) a. 箱入りの本, あの男は酒浸りだ, 右寄りの新聞, シャツが泥まみれだ
 (cf. シャツが* (泥に) まみれている)
 b. フランス帰りの女優, 平助の妻は女郎上がりだった, あの漁師は大学出だ
 (cf. 女優は* (フランスから) 帰った, 漁師は* (大学を) 出ている)
 c. 殻付きの落花生, 夫人付きの事務官, この酒は金箔入りだ
 (cf. 酒に金箔が入っている)
 d. 花子は父親似だ (cf. 花子は* (父親に) 似ている)
- (12) a. 水浸しの床, 外付けのモデム, 粕漬の魚, 瓶詰めのジャム, 串刺しの肉, パック詰めの野菜 (cf. 肉を* (串に) 刺す, 野菜を* (パックに) 詰める)
 b. シロップがけのかき氷
 c. 所帯持ちの学生, 物知りの老人, 問題含みの政策
- (13) a. この日本酒は金箔入りだ ← 日本酒には金箔が入っている
 謹呈用の本は箱入りだ ← 本は箱に入っている
 b. スペアリブは骨付きだ ← スペアリブには骨が付いている
 その秘書は夫人付きだ ← その秘書は夫人に付いている
- (14) a. 動名詞, 述語名詞いずれにも用いられる: ジャムを瓶詰めする / 瓶詰めのジャム,
 氷にシロップがけする / この氷はシロップがけだ
 b. 動名詞のみ: 子が乳離れする / *乳離れの子, 車を車庫入れする / *車庫入れの車
 c. 述語名詞のみ: *箱入りする / 本は箱入りだ, *泥まみれする / 洋服が泥まみれだ
 *塀を石造りする / この塀は石造りだ
- (15) a. 学校帰りの子供, 健は酒飲みだ, 早送りの映像, 夫は会社勤めだ, 気がかりな天気
 b. 罪作りな人だ, 人騒がせな人, 親泣かせな息子, 花子は人たらしだ

Ⅲ.動詞由来複合名詞が表す属性叙述のタイプ

(16) 属性のタイプ (益岡 2018)

- A 本来的な属性
 - A1 カテゴリー属性
 - A2 性質属性
- B 事象から派生する属性
 - B1 習性属性
 - B2 履歴属性

(17) 事象から含意される結果状態の描写が属性にシフトする

- a. ペン書き, 手編み (手段), レンガ造り (材料)
- b. 箱入り, 瓶詰め (場所格), 金箔入り, シロップがけ (物材)
- c. 黒塗り, 黒焦げ (結果述語)

(18) 事象を過去の履歴として有することで属性にシフトする

e.g. フランス帰り, 大学出, 女郎上がり, アメリカ生まれ, 田舎育ち

(19) 事象に常習性が読み込まれることで属性にシフトする

e.g. 酒飲み, 罪作り, 人騒がせ, 人たらし, 早食い, 早起き

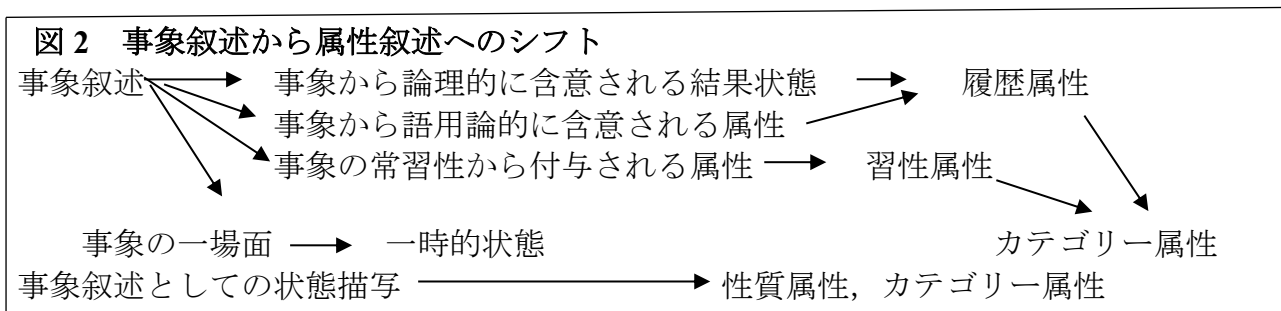
(20) そもそも属性叙述機能がある状態性の動詞(BE または STAY)を主要部とする

事象叙述における「状態」、事象項がなく、属性にシフトする

e.g. 父親似, 問題含み, 訳あり, バス付き, 物知り, 人嫌い

(21) 事象の完結性を除き、その一場面を切り取り、場面レベル(stage-level)の状態に類するものにシフトする

e.g. 学校帰り, 早送り, 気がかり, 会社勤め



Ⅳ. 複合名詞が属性描写機能を持ち得る条件と解釈を導く要因

・項構造による制約: 叙述対象として適切な項が述語名詞の外項 (または「主語」) として受け継がれ、さらに、他のすべての必須項は具現されねばならない

(22) a. 黒焦げになった魚 → 黒焦げの魚, この魚は黒焦げだ

b. 固ゆでにした大根 → 固ゆでの大根, 煮物の大根は固ゆでだった

c. ペン書きした答案 → ペン書きの答案, その答案はペン書きだった

d. にわか作りした小屋 → にわか作りの小屋, あの小屋はにわか作りだ

(cf. 伊藤・杉岡 2002) 図1の State 内の要素の結合、または、道具・様態の付加詞が作成動詞や使役変化動詞と結合した場合で、結果事象への焦点移動が起こっている場合に可)

(23) a. 地割れした畑 → *地割れの畑, *あの畑は地割れだ

b. あのビルはガス漏れした → ?ガス漏れのビル, *あのビルはガス漏れだ

(24) a. 彼の語調は尻下がりだ d. 日本の景気は先細りだ

b. 花子の顔は下膨れだ e. 彼はなかなかの目利きだ

- c. このカードは期限切れだ (cf. 由本 2017)
- (25) a. このホテルはレンガ造りだ / *あの建築家はレンガ造りだ
 b. この大根は固ゆでだ / ?料亭の板前は固ゆでだ
- (26) a. あの言語学者は東大出だ / *この大学はノーベル賞学者出だ
 b. あの部屋は風呂付きだ / あの事務官は夫人付きだ
 c. この日本酒は金箔入りだ / 彼の新刊の本は箱入りだ (cf. (13))

- ・叙述対象名詞のクオリア構造に複合名詞が付与する情報
- (27) a. この論文はチョムスキーに数回引用された。
 b. この動物は、ダムを造る。(cf. 影山 2012:12)
- (28) a. ??チョムスキー引用の論文 / *この論文はチョムスキー引用だ
 b. *ダム造りの動物 / *この動物はダム造りだ
- (29) a. このホテルは安藤忠雄氏設計です (cf. (2)) b. その立候補者は自民党公認です
 影山(2008) : 「外項複合語」の派生はクオリア構造における操作によって捉えられる。
 cf. (Kageyama 2006 : 事象項の統語的抑制による分析)

- ◎クオリア構造 (cf. Pustejovsky 1995) とは
- ①構成クオリア：物体とそれを構成する部分の関係
 - ②形式クオリア：物体を他の物体から識別する関係
 - ③目的クオリア：物体の目的と機能あるいは習性
 - ④主体クオリア：物体の起源や発生に関する要因 (cf. 小野 2005:24)

- (30) 「ホテル」のクオリア構造
- ・形式クオリア＝個物, 人工物(x)
 - ・主体クオリア＝ y が設計し z が建築する
 ↑ 安藤忠雄氏設計 (影山 2008:34)

・複合名詞が表す事象が、叙述対象名詞のクオリアに含まれる情報をより特定したり、豊かにしたりするものとして組み込まれ得る場合は、属性を表す述語名詞として容認される。文レベルでは、たとえば「ている」の付加などにより属性叙述表現であることを顕示し得るが (cf. 影山 (2008, 2012)), 語レベルにはそのような方策がないため、叙述対象の属性描写は語彙の意味と世界知識に依存するしかなく、そのため限られたものにしか容認されない。 (由本 2017:277)

⇒人工物を叙述対象とする場合、その主体役割内の情報に合致するような作成動詞を主要部とし、付加詞(材料・道具など)と結合した複合名詞は、まず主体役割、すなわち履歴属性を特定するものとして容易に解釈される。さらに特に、材料など、他のクオリアにも情報を付与する場合は、カテゴリー属性となり、容認されやすい。(cf. 手編み vs. 機械編み, *男性編み, ??宮大工造りのお社)

- (31) 「レンガ造りのホテル」
- 「ホテル」の主体クオリアに合致する複合名詞、材質を特定する属性として解釈可
- ・形式クオリア＝具体物 (x_i), 人工物 (x_i), 建築物 (x_i)
 - ・構成クオリア＝材質 (z_j =レンガ)
 - ・主体クオリア＝ 造る ($e, y, x_i, \text{with } z_j$ =レンガ)
 ↑ レンガ造り [e [y BUILD x_i WITH z_j]]

☆使役変化他動詞、非対格自動詞の場合、叙述対象は変化が起こる内項が優先→結果状態の描写 (cf. Levin & Rappaport 1986)

複合名詞が表す事象は主体クオリアに挿入され一種の履歴属性として解釈される。
 そこから含意される結果状態が叙述対象の形状、色、サイズ、包含関係についての情報を他のクオリアに付与する場合は、カテゴリー属性にシフトすることができ、さらに容認されやすい。(e.g. 「〇〇造り、〇〇入り、〇〇付き」は生産性が高い)

- (32) 「白塗りのかべ」 (論理的含意による結果状態からのシフト)
 ・形式クオリア=具体物 (x_i), 人工物 (x_i), 白い(p^*, x_i) (p*=property)
 ・主体クオリア=塗る (e, y, x_i)

↑ 白塗り [e [y CAUSE [BECOME [x_i BE AT WHITE]]]]

(cf. 「この部分は薄塗りだ」 履歴属性としての解釈のみ)

- (33) 「箱入りのみかん」 (論理的含意による結果状態からのシフト)
 ・形式クオリア=具体物 (x_i), 果物 (x_i)
 ・構成クオリア= container_of (z_j =箱, x_i)
 ・主体クオリア= (y が x_i を栽培する...)
 入れる (e, w, x_i, in, z_j =箱)

↑ 箱入り [e [BECOME [x_i BE [IN BOX]]]]

(cf. 「あの御嬢さんは箱入りだ」 意味拡張により性質属性へシフト)

- (34) 「金箔入りの酒」 (論理的含意による結果状態からのシフト)
 ・形式クオリア=具体物 (x_i), 人工物 (x_i), 飲み物 (x_i)
 ・構成クオリア= contain (x_i, z_j =金箔)
 ・主体クオリア= (y が x_i を醸造する)
 入れる (e, y, z_j =金箔, in, x_i)

↑ 金箔入り [e [BECOME [GOLD FOIL BE [IN x_i]]]]

・複合名詞が表す事象は履歴属性 (主体クオリア) に情報を付加するが、論理的に含意される状態ではなく、語用論的に含意される属性によって、カテゴリー属性としての解釈が容認される場合 (cf. (18))

- (35) 「大学出の運転手」: 主体クオリア= x_i が y_j (=大学) を出る
 「大学を出る」という事象の目的役割= 高等教育を受け、教養・専門知識を身につける

⇒主語名詞はそれを履歴とすることで「教養が高い」という属性が推論される
 複合名詞が表す事象についての「世界知識」も関わる

cf. 指示的な名詞 (主語を指す) と属性叙述機能を持つ場合との区別

この男は道場破りだ / 道場破りはこの男だ

その共演は掟破りだ / ??掟破りはその共演だ

☆内項と複合し、特定の結果状態が含意されない事象を表す場合は、叙述対象が外項となり、習性属性として適切と判断されれば容認される。

慣習化の度合い: 健は {酒飲み / ?水飲み} だ、{早食い / ?早飲み} の人

- (36) 「酒飲みの先生」
 ・形式クオリア=人の役割 (x_i)
 ・目的クオリア= teach (e_1, x_i, y_j)
 ・主体クオリア= 飲む (e_2, x_i, z_j =酒)
 ↑ 酒飲み [e [x_i DRINK ALCOHOL]]

・履歴属性と習性属性の違い

- (37) a. 「あのホテルはレンガ造りだ。」 「いつレンガで造られたのですか？」
b. 「あの運転手は大学出だ。」 「いつ大学を出たのですか？」
c. 「あの先生は酒飲みです。」 「?いつ酒を飲んだのですか？」
(38) a. *あのホテルは普段はれんが造りだ。
b. *あの運転手は普段は大学出だ。
c. あの先生は普段は酒飲みだ。 (cf. 影山 2008)

・属性叙述と事象叙述の状態の違い

- (39) a. *このセーターは今手編みですか？
b. *あの画家は今フランス帰りですか？
c. あの子は今学校帰りですか？ あなたは今会社勤めですか？
d. ?この部屋は今バス付きですか？ vs. あの秘書官は今夫人付きですか？

☆動詞の語彙的意味としてもともと事象項が抑制されている場合、内項と結合している複合名詞は本来的に属性叙述機能をもつ (cf. (20) 「父親似, 問題含み」)

(cf. 影山 2008:29)

- (40) a. あの画家はフランスから帰った ≠ あの画家はフランス帰りだ
b. 彼は東大を出た ⇒ 彼は東大を出ている ⇒ 彼は東大出だ
c. ??健は色々なことを知る ⇒ 健は色々なことを知っている ⇒ 健は物知りだ
d. ?この政策は問題を含む ⇒ この政策は問題含みだ

V. まとめと今後の課題

参考文献

- Baker, Mark. 1988. *Incorporation*. University of Chicago Press.
伊藤たかね・杉岡洋子 2002. 『語の仕組みと語形成』 研究社.
影山太郎 1993 『文法と語形成』 ひつじ書房.
Kageyama, Taro. 2006. Property description as a voice phenomenon. In T. Tsunoda and Kageyama, T (eds.), *Voice and Grammatical Relations*. pp. 85-114. John Benjamins.
影山太郎 2006. 「外項複合語と叙述のタイプ」 益岡隆志他 (編) 『日本語文法研究の新地平 1 : 形態・叙述内容編』 1-21. くろしお出版.
影山太郎 2008. 「属性叙述と語形成」 益岡隆志 (編) 『叙述類型論』 pp. 21-43. くろしお出版.
影山太郎 2009. 「言語の構造制約と叙述機能」 『言語研究』 136, 1-33.
影山太郎 2012. 「属性叙述の文法的意義」 影山太郎 (編) 『属性叙述の世界』 pp.3-35. くろしお出版.
Levin, Beth and Malka Rappaport. 1986. The formation of adjectival passives. *Linguistic Inquiry* 17, 623-661.
Lieber, Rochelle. 1983. Argument linking and compounding in English. *Linguistic Inquiry* 14, 251-285.
益岡隆志 2008. 「叙述類型論に向けて」 益岡隆志 (編) 『叙述類型論』 pp. 3-18. くろしお出版.
益岡隆志 2018. 「日本語文論からの課題提起—叙述類型論の事例—」 『文化情報学』18号、pp. 98-104、同志社大学文化情報学会.
Mithun, Marianne. 1984. The evolution of noun incorporation. *Language* 60, 847-894.
小野尚之 2005. 『生成語彙意味論』 くろしお出版
Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. MIT Press.
Sugioka, Yoko. 2001. Event structure and adjuncts in Japanese deverbal compounds. *Journal of Japanese Linguistics* 17, 83-108
由本陽子 2017. 「事象から属性へ」 西原哲雄他 (編) 『現代言語理論の最前線』 pp. 263-279. 開拓社.

*本発表は科学研究費平成 30 年度基盤研究(B)17H02334 の助成を受けた研究の一部である。